

### 【指導方針】

サッカー競技を通じて少年少女の健全な育成を前提とし、  
『サッカーの楽しさ、面白さ』  
『将来につながるサッカー技術』  
これらの事を理解し、習得出来るよう指導にあたる。

#### 「サッカーの楽しさ、面白さ」について

- |                 |   |              |
|-----------------|---|--------------|
| ① 体を動かす事        | — | 〔行動欲求を満足させる〕 |
| ② 出来るようになる      | — | 〔達成感をもたらす〕   |
| ③ 周りに認めてもらう     | — | 〔認知される喜び〕    |
| ④ 勝つこと（試合・ライバル） | — | 〔勝利の満足感〕     |
| ⑤ 協力する事         | — | 〔一体感の喜び〕     |
| ⑥ 自分自身に勝つこと     | — | 〔努力が実る喜び〕    |

※ ポイント 上記のものは<年齢><個人差>によって大きく違う  
④以降は特に低学年では喜びを感じにくい。  
各個人々を的確に把握し、体感させる必要がある。

#### 「将来につながるサッカー技術」について

- ① 正確な基礎技術の習得 — 思ったところに  
ボールコントロールする能力
- 1) ボールを止めること（トラップ）
  - 2) ボールを運ぶ（ドリブル）
  - 3) ボールを蹴る（キック）
- ② 状況判断の習得・的確な判断能力  
「周囲を見る」「プレーする前に考える」  
見て収集した情報→予測→判断→創造→実戦
- ③ 自分で考えられるプレーヤーに
- 1) サッカーの楽しさを実感させる
  - 2) 子供自身の思考錯誤を促す（ゆとりある指導）
  - 3) 個性の尊重

### 《トレーニングのテーマについて》

#### 低 学 年

- ① 楽しくみんなで遊ぶ事
- ② ボールに慣れる事
- ③ 人の話が聞ける事
- ④ 人のプレーを見る事

※ポイント 低学年は集中力が乏しく飽きやすい、従って待ち時間を少なくし、飽きないようにメニューを考える。  
これからサッカーを始める子供達に、大人の価値観を押し付けしないで「個々の観察」「忍耐」で指導する

#### 中 学 年

- ① 正確な技術
- ② 技術の種類を増やす
- ③ 仲間と協力してゲームを進める
- ④ 仲間のイメージづくりをする

\*ポイント 基礎技術の習得に重点を置く

- ・ 止める（）
- ・ ドリブル（）
- ・ 蹴る（）

#### 高 学 年

- ① しっかりとした技術（スキル）
- ② 個人戦術の獲得
- ③ 対人プレー
- ④ 11人ゲームの感覚

※ポイント スキルアップは反復練習の積み重ねである  
個人戦術等は「ルックアップ」を基本とするがコーチの押し付けであってはならない。個々を観察する事

《後記》個人々のレベルの見極めとアドバイス時期とポイントに注意